

# 「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里北中学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

## 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
数学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

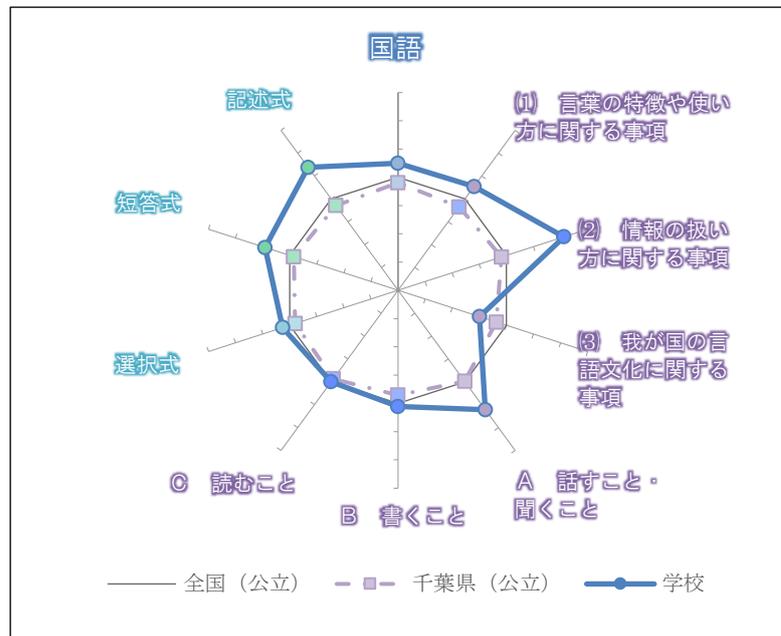
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



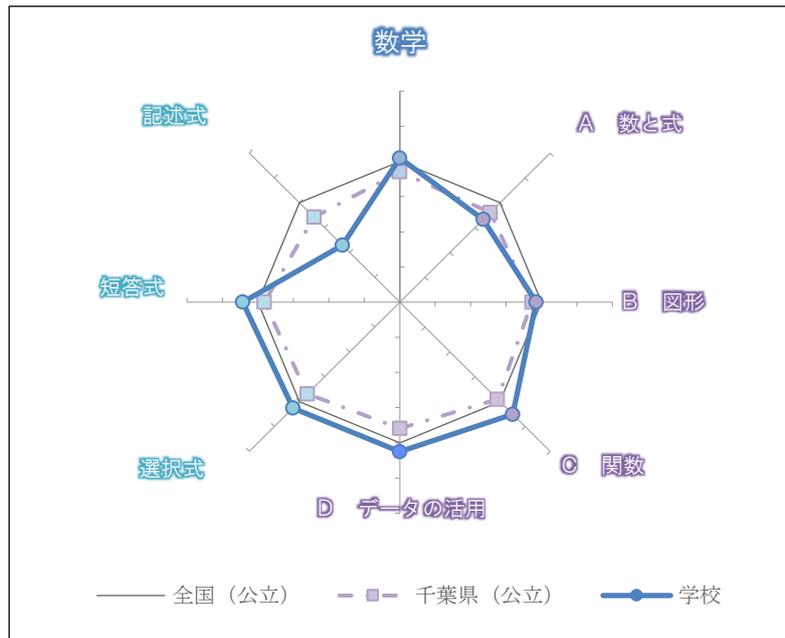
#### 【特徴と現状】

ほとんどの項目で全国平均正答率を上回っています。特に「情報の扱い方に関する事項」は全国平均正答率より 21.3%も上回っています。このことから、日頃からタブレット等を活用し情報を精査する力が身に付き、その情報を基に文章を記述する能力が高いと考えられます。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均正答率を 9.9%下回っています。まずは日頃から読書に親しむ必要があります。読書に親しむことで、さらに言語に対する知識理解が深まり、読解力も向上すると考えられます。

#### 【改善方策等】

「我が国の言語文化（古典）」を読み解く力を高めるためには、日ごろから読み慣れることが大切です。古文は苦手意識をもたずに、図書室等を利用して古典の作品に触れる機会を増やしてほしいです。また、今昔物語集や宇治拾遺物語等の短章を読むことで認識を広めてほしいです。授業においては、古文に関するワークシートを定期的に配付し、歴史的仮名遣いや古文の語彙を増やしていきます。古典の作品を紹介し、さらに文学史にも興味を向けさせていきます。

## 数 学



### 【特徴と現状】

全体的に、数学の習熟度は高く、基本的な技能は十分に身に付いていると考えられます。特に、領域では「関数」と「データの活用」の分野において正答率が高いです。

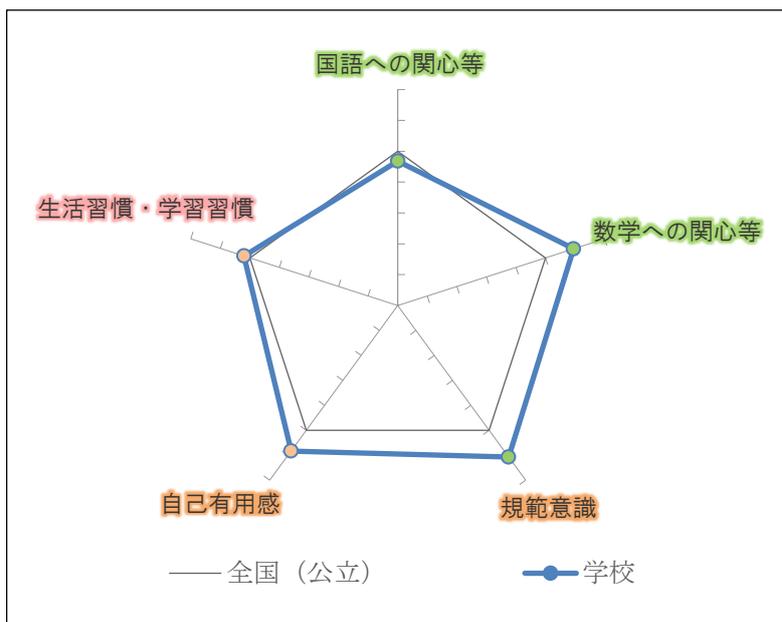
問題形式別でみると、「選択式」や「短答式」の正答率は非常に高いものの、「記述式」の問題については正答率が極端に低いです。授業やレポートで、記述の問題演習を行っていますが、まだまだ問題演習量が不足し、定着が図れていません。また、発表においても短答で答えられるものに対しては積極的ですが、説明する問題に対しては自信がなく、やや消極的な面が感じられます。

### 【改善方策等】

授業でグループ活動を取り入れ、生徒同士で教え合いができる環境を整えていきます。また、副教材（ワーク）の記述式問題を取り上げ、記述するポイント等を解説し、同じ問題を複数回取り組ませていきます。

しかし、記述式問題は1問解くにも時間がかかります。授業内だけでは、「量」をこなすことができず、授業内に理解できても、定着までたどり着けない可能性があります。そのため、家庭学習で授業の復習をするとともに、理解しているうちに記述式問題に挑戦し、定着を目指してほしいです。

### (3) 生徒に対する質問紙調査の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

いじめを良しとしない考え方や、人が困っている時には進んで助けるといった「規範意識」に関する質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合が全国平均と比べて高いです。授業や学校生活で協力しながら課題解決に取り組んでいるため、グループ学習を取り入れることで、より教科に対する関心が高まっていると考えられます。

一方で、家庭で自己学習する時間が不足している傾向が見られます。各学年で、実施方法を工夫しながら家庭学習を取り組ませています。効果的な方法や生徒の意欲を高めていく方法を工夫することが必要であると考えられます。

### 3 まとめ

全体的に国語と数学は、ほぼ全国公立中学校の平均正答率と同じ値を示しています。また、過去3年間の経年変化を分析すると、どの項目も上昇傾向にあります。

本校では、「生徒一人一人が意欲的に参加し、自主的に学習課題に取り組む授業づくり」を目指しています。引き続き、各教科・領域において積極的に小グループ活動やICTを活用した授業を展開し、生徒一人一人が主体的な態度で学習課題に取り組む態度を育てていきます。